

これからのまちを「対話」でつくるまちづくりワークショップ ～ローカルダイアログで描く協働のまちづくり～

自分たちが住みたいまち、暮らしたいまちの姿を考え、カードを使って対話しながら、まちづくり戦略を作っていくワークショップを開催しました。

日時:令和5年10月8日(日)13:00~16:00
会場:市民交流施設「ぷらっと」(C・D会議室)
講師:前鼻 一輝氏(合同会社 Dialogger リーダー)
内容:



●ワークショップ「ローカルダイアログ」



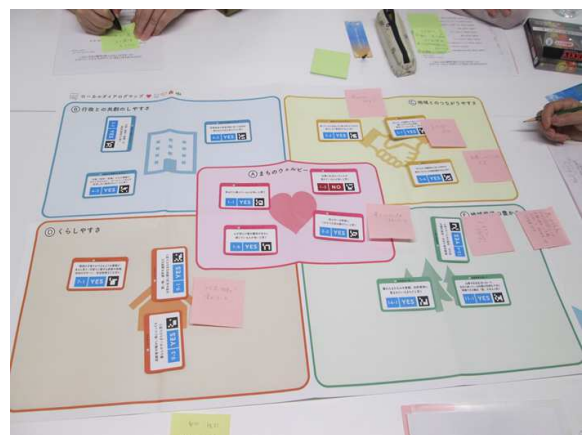
(1)ワークショップの概要

ダイアログカード(質問内容は行政のアンケート項目を参考に作成)を使って対話を深めていきます。ダイアログカードは、5つのカテゴリーに色分けされた質問にYES/NO形式で答えてもらいます。

最後に、答えた情報を可視化(データ化)することで、参加した人だけではなく参加できなかった人にも報告の資料として活用できる。

(2)対話の仕方

ダイアログカードを使って対話を深めていく上で、まず、今の街の姿をまずグループで対話し、形を作っていく。そして、可視化された街の姿を確認して、どこからまちづくりの戦略を組み立てていくかお話をしていくという3ステップを実施する。対話をしていく上で、グループの中でどのように合意形成をしていくことになるが、結果を決めるのが難しい場面、多数決で決めてもよいし、対話の中で少しでもNOの部分があればNOにしてもよい。



(3)今の街の姿についてグループ討議の様子

今回のグループ編成は5人一組で5グループを作った。各グループで同じ江別を思い浮かべて対話を行ったが、5グループそれぞれでできた結果が違い、三者三様だった。5つのカテゴリーのうち、例えば、「くらしやすさ」で「理想の子育てができるような環境があると思う」や「買い物、通学、通院など日常の生活に便利な街だと思う」のほか「高齢者や障がい者にとっても暮らしやすい街だと思う」の設問に対して、すべての

回答が YES のところもあれば、すべて NO と答えるグループがあり、自分の持っている情報や、他の人の声を聞いてみて自分の考えを変えていくということを、ワークショップの中で実践できていました。

(4)今後のまちづくりについてグループ討議の様子

グループ討議で可視化された街を持続可能な地域にするためにはどこを解決していけばいいか、5つのカテゴリーのうち、対話で NO と答えたカード中から3枚選び、今後のまちづくりをどのようにしたら NO が YES になるかを対話した。

先ほど「くらしやすさ」を選んだグループは、「買い物、通学や通院など日常の生活に便利な街だと思う」について、NO から YES にするためには、デマンドバスや乗合タクシーについても調べ、色々な地域への乗合タクシーの導入や、大型バスをマイクロバスや自動運転バスなどに変えて導入してみるもののほか、企業が移動販売などを行い、学生の都合のいい時間帯に移動販売車に来てもらい販売してもらうなどの意見がでました。

●グループ討議後の講師からの講評

持続可能な街を作っていくためのポイントとして、未来の街を描いていくためには、今の街の姿、想いを知っていく必要があるということを経験していただけたと思う。

街の魅力や課題、背景にはなにがあるのだろう、どのような思いがあるのだろうというところがまず重要でそこを知って未来の街にどのようなことができるかを話していくことがとても大事です。本日、皆さんで対話してみて、自分の中で思っていたことが、他の方は違う考え方をしていることも見えたと思う。

発表していただいたアイデアは、皆さんの中から出てきたものですので、街をよくするアイデア、課題も皆さんの中にあると思っていますので、これを機会にぜひ、街について話す機会とか街についての自分の思いを発信することをぜひ、これからもやっていただければ、少しずつ街はよくなっていくと思う。

参加者からは、「色々な世代の人との意見交換ができたのはよかった」、「自分たちが住んでいる江別を客観的な目先で知ることができたのと今後の課題も見えてきた」、「対話をすることで他の意見を知ることができたので良い機会となった」などの感想が寄せられました。